

CITIZEN

2019年度（2020年3月期）

第1四半期決算説明会

シチズン時計株式会社

2019年8月8日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

広報・IR担当の古川でございます。

本日は、ご多用のところ、当社第1四半期決算の電話会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

早速ですが、第1四半期の決算の概況について、ご説明させていただきます。

決算のポイント

■ 2019年度第1四半期実績 減収減益

- ・時計事業

完成品：国内は増収も北米、中国が低迷

ムーブメント：伸び悩みが継続

- ・工作機械事業

減速感が世界的に広がり、減収減益

■ 2019年度通期 連結業績予想

- ・為替動向および時計事業、工作機械事業の市況悪化を受け、下方修正

2

CITIZEN

まず、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

当社の第1四半期実績ですが、時計事業の完成品販売につきましては、国内市場が増収となったものの、北米市場、中国市場が低迷し、また、ムーブメント販売が低進捗であったことが響き、減収減益となりました。

工作機械事業は、昨年秋ごろからの減速感が世界的に拡大したことから受注が落ち込み、減収減益となりました。

デバイス事業および電子機器事業、その他の事業は概ね想定通りの進捗となりましたが、全体では減収減益となりました。

なお、通期業績予想につきましては、為替が想定以上に円高に推移していることに加え、主要事業の業績が前回予想を下回る見通しとなりましたので、業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、後程ご説明いたします。

2019年度 第1四半期連結業績概要

(単位：億円)	2018年度1Q	2019年度1Q	前年同期比	
	実績	実績	増減率	増減額
売上高	745	699	▲6.2%	▲45
営業利益	45	18	▲59.9%	▲27
営業利益率	6.1%	2.6%	-	-
経常利益	59	20	▲66.1%	▲39
親会社株主に帰属する四半期純利益	39	9	▲76.8%	▲30
為替レートの影響	¥108/USD ¥130/EUR	¥111/USD ¥124/EUR	-	

為替の影響	売上高	営業利益
USD	+13.0億円	+3.0億円
EUR	+2.0億円	+0.7億円

(1円の円安 年間)

3

CITIZEN

それでは、第1四半期業績概要を説明させていただきます。

売上高は、主に時計事業および工作機械事業の低迷により、前期比 6.2%減の699億円と減収となりました。

営業利益は、前期比 59.9%減の18億円と減益となりました。

営業利益率は2.6%、

経常利益は、前期比 66.1%減の20億円、

四半期純利益は、前期比 76.8%減の9億円となりました。

セグメント別業績推移

売上高

(単位：億円、%：営業利益率)	2018年度	2019年度	前年同期比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減率	増減額
時計事業	358	335	▲6.5%	▲23
工作機械事業	171	157	▲7.8%	▲13
デバイス事業	155	145	▲6.6%	▲10
電子機器事業	45	45	▲0.9%	▲0
その他の事業	13	15	+9.8%	+1
合計	745	699	▲6.2%	▲45

営業利益

時計事業	23 (6.7%)	6 (2.0%)	▲71.6%	▲17
工作機械事業	31 (18.7%)	26 (16.7%)	▲17.8%	▲5
デバイス事業	7 (4.5%)	3 (2.4%)	▲51.1%	▲3
電子機器事業	▲0 (▲0.9%)	▲0 (▲1.2%)	-	▲0
その他の事業	0 (2.8%)	1 (8.1%)	+218.5%	+0
消去又は全社	▲17	▲19	-	▲1
合計	45 (6.1%)	18 (2.6%)	▲59.9%	▲27

4

CITIZEN

続いて、セグメント別の業績推移について説明させていただきます。

時計事業につきましては、売上高 前期比6.5%減の335億円と減収、営業利益は前期比71.6%減の6億円と減益となりました。

工作機械事業につきましては、売上高 前期比7.8%減の157億円と減収、営業利益は前期比17.8%減の26億円と減益となりました。

デバイス事業につきましては、売上高 前期比6.6%減の145億円と減収、営業利益は前期比51.1%減の3億円と減益となりました。

これら主要3事業の状況については、後程説明させていただきます。

電子機器事業につきましては、フォトプリンターが好調に推移したため、プリンターは増収となったものの、健康機器が減収となり、売上高 前期比0.9%減の45億円と減収、営業損失は0億円と減収減益となりました。

その他の事業は、売上高は前期比9.8%増の15億円、営業利益は前期比+218.5%増と増収増益となりました。

2019年度 上期及び通期連結業績予想

(単位：億円)	2019年度前回予想		2019年度今回予想		前回予想比増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,520	3,180	1,463	3,050	▲ 57	▲ 130
営業利益	90	200	72	160	▲ 18	▲ 40
営業利益率	5.9%	6.3%	4.9%	5.2%	-	-
経常利益	100	220	75	180	▲ 25	▲ 40
親会社株主に帰属する当期純利益	70	145	50	115	▲ 20	▲ 30
為替レート	¥110/USD ¥120/EUR	¥110/USD ¥120/EUR	¥108/USD ¥122/EUR	¥106/USD ¥121/EUR	-	-

5

CITIZEN

次に、業績予想ですが、冒頭で触れました通り、時計事業および工作機械事業が市況悪化を受け、前回予想値を下回る見通しとなり、業績予想の下方修正をいたしました。また同時に、第2四半期以降のUSドルの為替レートを110円から105円へ変更しております。

通期の予想値でご説明しますと、売上高は、前回予想比130億円減の3,050億円、営業利益は、前回予想比40億円減の160億円、営業利益率は5.2%、経常利益は、前回予想比40億円減の180億円、当期純利益は、前回予想比30億円減の115億円と致しました。

2019年度 セグメント別業績予想

売上高

(単位：億円、%：営業利益率)	2019年度前回予想		2019年度今回予想		前回予想比増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
時計事業	755	1,670	732	1,600	▲ 23	▲ 70
工作機械事業	350	670	320	620	▲ 30	▲ 50
デバイス事業	293	590	290	581	▲ 3	▲ 9
電子機器事業	93	190	92	189	▲ 1	▲ 1
その他の事業	29	60	29	60	+0	+0
合計	1,520	3,180	1,463	3,050	▲ 57	▲ 130

営業利益

時計事業	50 (6.6%)	130 (7.8%)	42 (5.7%)	112 (7.0%)	▲ 8	▲ 18
工作機械事業	58 (16.6%)	105 (15.7%)	48 (15.0%)	88 (14.2%)	▲ 10	▲ 17
デバイス事業	10 (3.4%)	21 (3.6%)	10 (3.4%)	16 (2.8%)	▲ 0	▲ 5
電子機器事業	2 (2.7%)	5 (2.6%)	2 (2.7%)	5 (2.6%)	+0	+0
その他の事業	1 (5.2%)	3 (5.0%)	1 (5.2%)	3 (5.0%)	+0	+0
消去又は全社	▲ 32	▲ 64	▲ 32	▲ 64	+0	+0
合計	90 (5.9%)	200 (6.3%)	72 (4.9%)	160 (5.2%)	▲ 18	▲ 40

こちらは、セグメント別の業績予想になります。

主に時計事業と工作機械事業を修正しており、デバイス事業、電子機器事業については、前提為替レートの変更に伴う影響のみ、予想値に反映しております。

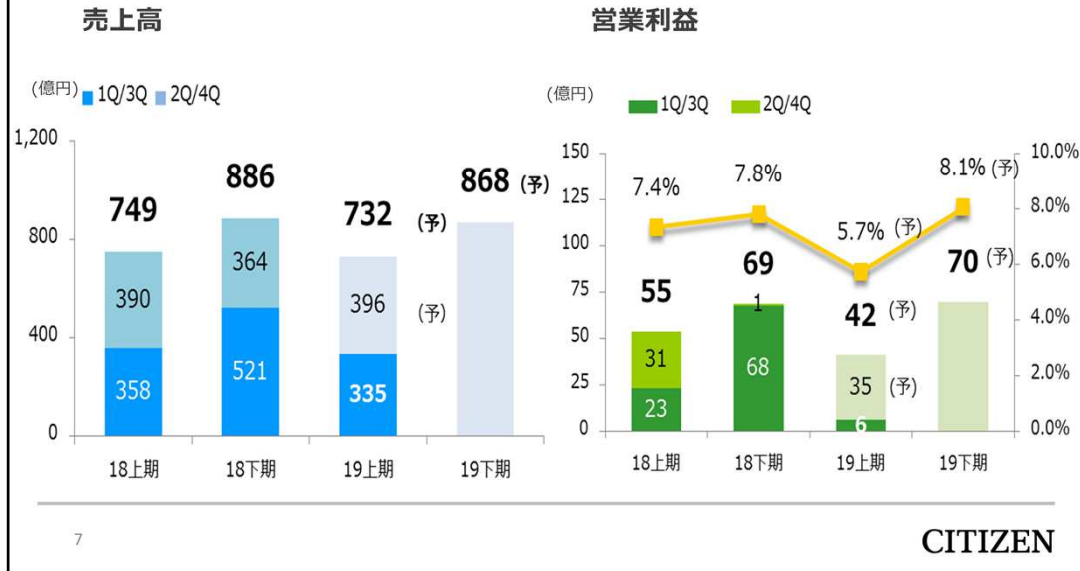
時計事業 第1四半期業績推移

<完成品販売>

- ・海外市場は、北米市場の実店舗流通の縮小の影響や中国市場の減速により、減収
- ・国内市場は、高価格品と中価格品が共に堅調に推移し、増収

<ムーブメント販売>

- ・高付加価値品需要の伸び悩みが継続し、減収



それでは、事業概況の説明に移ります。まずは時計事業です。

完成品販売は、国内が増収となったものの、北米および中国市場の落ち込みを補うには至らず、減収となりました。北米市場は、実店舗流通の縮小が進む厳しい市場環境の中、中価格帯市場におけるシェアは拡大したものの、減収となりました。欧州市場は、市場に不透明感がある中、「PROMASTER」など新製品の投入が奏功し、ドイツ、イタリア、スペインの売上を押し上げ、現地通貨ベースでは増収となりましたが、為替の影響で、減収となりました。アジア市場は、香港、タイ、ベトナムなどで売上を伸ばしました。中国は、実店舗の販売が不振であった他、前期の売上増の反動減もあり、減収となっております。

国内は、高価格帯の「The CITIZEN」、「Eco-Drive One」が引き続き好調に推移した他、中価格帯の「xC」、「PROMASTER」が販売を伸ばし、増収となりました。

ムーブメント販売については、機械式ムーブメントの需要が好調に推移する一方で、主力のクォーツムーブメントは高付加価値品を中心に依然として伸び悩みが続いており、減収となりました。

営業利益については、主力市場のひとつである北米市場が売上を落とした他、ムーブメントの売上減および減産対応の影響を受け、大幅な減益となっております。

2019年度予想については、通期売上高は、前回予想比70億円減の1,600億円。通期営業利益は前回予想比18億円減の112億円に修正しました。

完成品については、地域別に状況を精査し予想を修正しています。

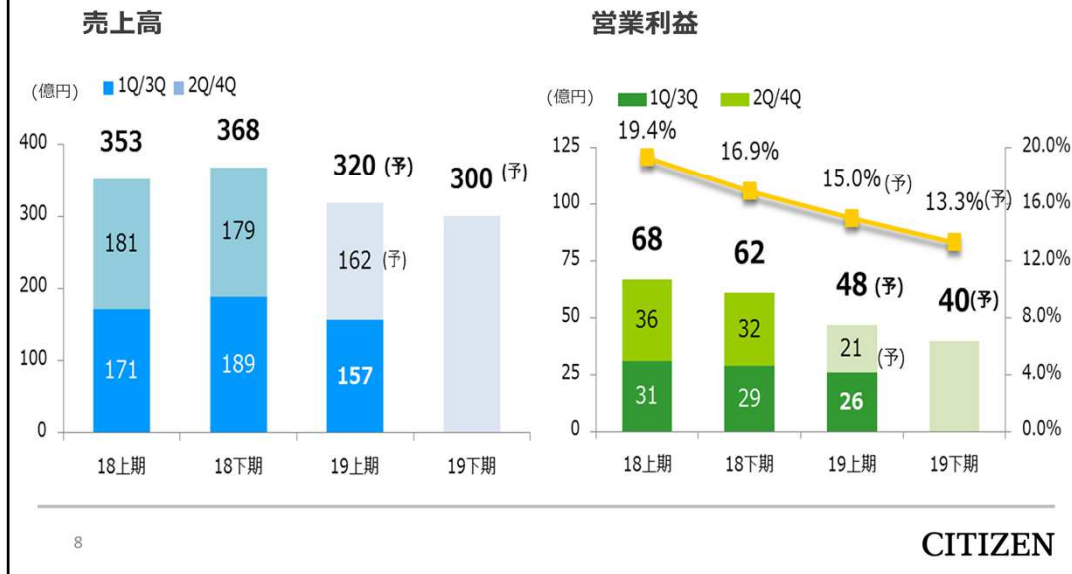
ムーブメント販売については、通期での増収は難しいと見込んでおり、数値を見直しています。

減産幅は縮小しますが、第2四半期まである程度の生産調整を継続することになります。

米ドルの為替レートの見直しによる影響額は、売上で▲25億円、営業利益で▲8億円となります。

工作機械事業 第1四半期業績推移

- ・国内市場は、半導体関連や自動車関連等の落ち込みにより、減収
- ・海外市場は、中国の医療向けが堅調に推移するも、世界的な投資需要の減退を受け、減収



次に、工作機械事業について、説明させていただきます。

米中貿易摩擦の過熱等、先行き懸念が強まっており、設備投資を先送りする動きが世界的に広がり、1Qの受注は約2割減となり、業界平均ほど落ち込んではいないものの、当初計画を下回りました。

国内市場は、半導体関連が軟調だったほか、自動車関連が中国を中心とした需要減少の影響を受けたこと、また特殊仕様の増加により、納期の長期化が進んでおり、減収となりました。

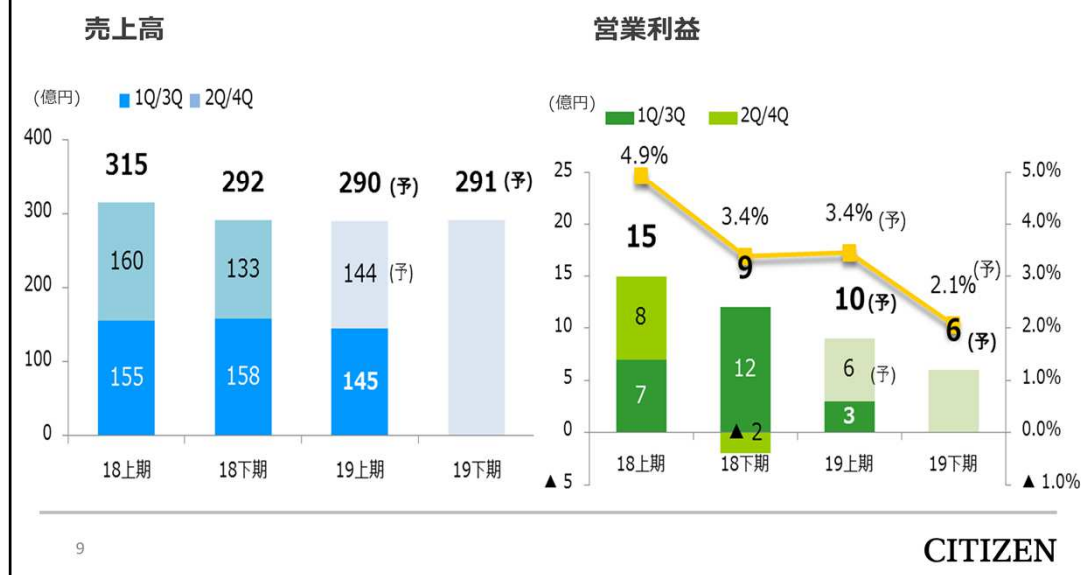
また、海外市場においては、欧州市場が中国需要の低迷を受け自動車関連が落ち込んだこと等により減収となりました。米州市場は安定的な需要の見込める医療関連等に注力したことにより堅調に推移し、アジア市場は、中国が医療関連が堅調で増収となったものの、アセアン地域では需要が低迷し、アジア全体では横ばいとなりました。

営業利益については、売上減少の影響、および高付加価値製品の多い欧州、国内の売上減により製品ミックスが悪化した影響もあり、減益となりました。

2019年度予想については、設備投資に対する様子見姿勢が強まっていることから、通期売上高を前回予想比50億円減の620億円、通期営業利益は前回予想比17億円減の88億円とそれぞれ下方修正を致しました。

デバイス事業 第1四半期業績推移

- ・精密加工部品は、新車販売台数の減少から自動車部品が低調となり、減収
- ・オプトデバイスは、バックライトユニットの低迷や照明向けLEDで行った収益重視の取り組みを受け、減収
- ・その他の部品は、水晶デバイス等が伸び悩み



次に、デバイス事業について、説明させていただきます。

精密加工部品のうち、スイッチは電子機器向けの売上を伸ばし堅調に推移したものの、自動車部品は、中国および欧州市場の新車販売台数の減少を受け売上が計画未達となり、減収となりました。

オプトデバイスについては、照明用LEDは減収となりましたが、不採算モデルの整理を進めた結果、増益となりました。一般LEDは、電子機器、ゲーム機用途が伸張しましたが、車載用が低迷し、増収となりましたが、若干の減益となりました。

営業利益については、スイッチが増益となったものの、自動車部品と水晶デバイスの売上減、バックライトの採算悪化が響き、減益となりました。

2019年度予想については、米ドルの前提為替レートの変更に伴い、通期売上高を前回予想比9億円減の581億円、通期営業利益は前回予想比5億円減の16億円とそれぞれ下方修正を行っております。

トピックス

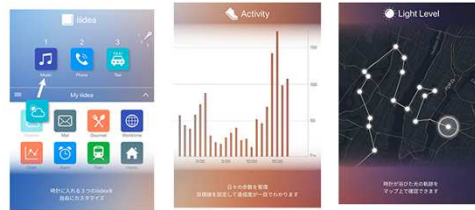
『Eco-Drive Riiiver』が『GREEN FUNDING』に出品、先行販売を開始

CCC(TSUTAYA)グループが運営するクラウドファンディング サイト、「GREEN FUNDING」に出品し、併せて先行販売を開始。
支援総額8,000万円を突破。



Riiiver

Imagine. Inspire. Innovate.



10

CITIZEN

最後に、トピックスですが、「Eco-Drive Riiiver」を今秋発売するにあたり、クラウドファンディング サイトGREEN FUNDINGへの出品と先行販売を開始しました。

出品後、募集開始28分で目標額を達成すると、更に支援額を伸ばしており、8月31日の期限まで23日を残し、支援総額は8,000万円を突破する等大きな反響を頂いています。

今後はデベロッパー向けのウェブサイトを開発し、各種イベントを行うなどしてデベロッパーの増加を見込む予定です。

CITIZEN

私からの説明は以上とさせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。